

コロナ危機から命と暮らしを守り、新自由主義を転換して、希望ある新しい社会をつくるために、青年と力を合わせよう

——青年の共同と連帯を草の根から広げる力強い民青へ

2020年11月29日 採択

### 1、青年と力を合わせ、命と暮らしを守り新しい社会をつくるたたかいを広げよう

「コロナで仕事も収入も激減。これからどうなるか本当に不安」「バイトがなくなり生活が厳しい。国の給付金ももらえなかった」「授業がどんどん進み、わからないまま取り残されてしまう」——コロナ危機の下で、青年の実態はかつてなく深刻になっています。同時に青年が、生活が苦しいのは「自分の責任」ではなく「社会の問題」と考えています。困っていることを言葉にし、互いにつながり声を上げ始めています。

こうした青年と出会い、力を合わせて社会を動かしてきたのが民青です。「実態を行政に届けたことを伝えると『本当に大事な活動ですね』と言われた」「学生が『私も誰かのために行動したい』と食料支援を手伝ってくれた」「『コロナ後は、コロナ以前よりよい社会にしよう』との訴えが本当にかみ合う」など、全国どこでも響き合っています。

青年の中に、この社会の一員として現状を変えていく大きな流れが生まれているいま、民青の出番です。

#### (1) 命と暮らしを守ってきた青年と民青のたたかい

「コロナ危機から青年の命と暮らしを守ろう」と力を尽くす民青の活動は、不安と危機の中にある青年を力強く励ましてきました。一人一人の実態を告発した実態調査と要請行動、のべ一万人以上が利用しあたたかい連帯の輪を広げた食料支援、多くの学生と力を合わせた学費値下げの運動など、全国の実態調査と同盟組織の奮闘は、青年の困難を「なかったこと」にさせず、「青年・学生への支援が必要」という世論をつくり出して政府や自治体の対策を一步一步前進させています。あらわになった社会のゆがみに目を向け「どうしたらいいか」を考え合った学習会やつどい、困難な中でも集まる努力を重ねた班会での「3分間スピーチ」や「みんなのタイム」が、青年と同盟員の前向きな生き方を支え、運動を広げる力となりました。

国民の命と暮らしを本気で守ろうとしない安倍・自公政権への怒りがかつてなく強まり、「自粛と補償は一体」の声は「一人一律10万円給付」「雇用調整助成金の拡充」などを実現させました。2020を超える大学に広がった学生の自発的運動に社会的注目が集まり、不十分ながらも政府を学生への緊急支援に踏み出させました。

青年・学生のたたかいと民青同盟の活動で、命と暮らしを守る力強い共同を築き、「声を上げれば政治は変えられる」ことを示してきたことは、私たちの大きな誇りです。そして、どんな困難な時も青年の利益と社会進歩のためにたたかう民青は、文字通りかけ

がえのない存在となっています。

## (2) 政権交代を実現し、いよいよ野党連合政権へ

安倍首相の辞任は、内政でも外交でもコロナ対応でも、自らが進めてきた政治が行き詰まった結果です。

安倍首相を辞任に追い込んだのは、あきらめずに声を上げ続けてきた青年・国民の世論と運動、市民と野党の共闘であり、その一翼を担ってきたのが私たち民青です。民青は、2014年11月の第38回全国大会で安倍政権打倒を呼びかけて以来、毎年の若者憲法集会を軸に草の根から運動と共同を広げ、安倍政権を追い詰めてきました。

新たに就任した菅義偉首相は「安倍政治の継承・発展」を掲げていますが、行き詰まった政治に未来はありません。政府の仕事である公的責任を放棄する「自助、共助、公助」を強調した新自由主義の政治や、学問の自由をおびやかし、表現・言論の自由の侵害につながる日本学術会議への人事介入など、菅政権では青年の願いを実現できないことは明らかです。平和と民主主義を守り、人々の命と暮らしを最優先にする新しい政治に切り替えるためには、政権交代しかありません。菅政権を倒し、新しい政治に転換できるかどうかは、私たちのたたかいにかかっています。

解散・総選挙は一年以内に必ず行われ、いつあってもおかしくありません。競争と「自己責任」を押し付ける政治を変え、連帯を大切にする社会をつくれれば、青年の生活は大きく変わります。野党は共闘を着実に発展させ、新自由主義を転換する方向での一致がつくられています。コロナ危機を経験し、政治を変えたいと願う多くの青年と力を合わせ、野党連合政権を実現するときです。

## (3) 新自由主義を転換し、新しい社会をつくる青年のたたかいを起こそう

日本は、もともと「アメリカいなり」「大企業優先」の自民党政治によって国民の暮らしと権利がないがしろにされてきました。このゆがみが、大企業のもうけを最優先にするためにすべてを競争と「自己責任」の市場原理に任せてきた新自由主義の押し付けの下でいつそう深刻となり、危機に対応できない社会にしてしまったのです。おおもとからただすことが必要です。

社会を変えるのは、人々の声と行動です。政治が命と暮らしを守る役割を投げ捨ててきたことへの批判が、国内外で強まっています。世界的なパンデミックによって、格差と貧困の拡大、地球環境破壊という資本主義の限界が深刻な形で浮き彫りになり、社会主義・共産主義への注目が強まっています。人種差別と植民地支配の歴史への抗議や人権と民主主義を求める運動の盛り上がりは、世界規模の流れとなっています。「核兵器禁止条約」発効の確定は、一部の大国が支配する時代から、世界のすべての国々と市民社会が国際政治の主役となる時代への転換を物語っています。自らの経験を通じて「いまの社会は変わらなければならない」と考えている多くの青年と展望を語り合い、力を合わせ、希望ある新しい日本と世界をつくるときです。

同盟員のみなさん。青年の要求実現に力を合わせるとともに、科学的社会主義と日本共産党綱領を学び社会の担い手として成長することを目的とする民青の存在意義はますます大きくなっています。

コロナ危機から青年の命と暮らし、学業を守るために、全力を尽くしましょう。

いまこそ新自由主義を転換し、コロナ以前とは違う新しい社会をつくる青年のたたかいを起こしましょう。

そして、そうした青年の共同と連帯を草の根から広げる力強い民青を目指しましょう。たくさん仲間を迎えて同盟員の倍加に向けて前進しようではありませんか。

## 2、新自由主義からの転換を目指し、青年と一緒に大きな運動を

切実な願いを強めるとともに、「社会を変えたい」と願う青年にとって、同盟員と同盟組織はもつとも頼りになる存在です。青年の命と暮らしを守り、新しい社会をつくる取り組みに力を合わせましょう。青年や同盟員の「困っていること」や関心をつかみ、解決を目指す立場で「自分たちに何ができるか」を相談することが大切です。「自分も何かしたい」「考えたい」と願うたくさんの方と力を合わせ、日本共産党や労働組合・民主団体の協力も得て、要求実現と社会変革への共同を広げながら進めましょう。

### (1) 地域・職場・学園から青年とともにたたかいを起こそう

民青が掲げてきた要求は、強まる青年の願いに込められているけれども、実現したい新しい社会の中身としても、いよいよ大切になっています。地域・職場・学園から青年とともにたたかいを起こしましょう。

——コロナ危機による影響は長期化・深刻化が予想されます。政府の責任でPCR検査を抜本的に増強するよう求めます。コロナ対策の諸制度を必要とするすべての人に行き渡らせ、感染収束まで持続させることが必要です。解雇・雇い止めや採用抑制の防止、休業手当の完全支給、雇用調整助成金や休業支援の拡充を求めます。政府の責任で大学の感染対策を徹底し、学生支援給付金など財政支援の抜本拡充を進めるとともに、直ちに授業料の一律半額免除を実施するよう、学生と力を合わせます。食料支援を広げるとともに、相談活動などに取り組んで支援制度の利用を後押しします。実態調査を進め、要請行動や記者会見などを行って実態を告発し改善を求めます。文化・芸術に関わる人達への支援を求める運動に力を合わせます。

——いまこそ労働者の権利を守り、大企業に責任を果たさせることが必要です。中小企業支援と一体での最賃1500円の実現や、労働時間の法規制を求めます。非正規雇用の正規化を進めるとともに、すべての人が安心して暮らせる労働ルールと社会保障を求めます。医療、福祉、保育、教育、公務などの待遇改善と経営支援へ政府の責任を果た

させます。労働組合に加わり、青年部活動の発展へ力を合わせます。消費税廃止を目指し、その減税を求めるとともに、大企業・富裕層による税負担を求めます。

——東日本大震災・福島原発事故から十年の節目に、震災・原発事故や各地で多発する災害からの復興に力を合わせます。原発再稼働に反対し、原発ゼロ、再生可能エネルギーへの転換を求めます。

——学費無償化へ学園に根差して活動を進めます。菅政権による日本学術会議への人事介入を許さず、任命拒否の撤回を求めます。学問の自由と大学の自治を守ります。理不尽な校則や詰め込み教育を改め、学ぶ喜びや豊かな人間性を育む教育の実現へ、教職員や保護者とも力を合わせます。

——世界では、軍事費を削ってコロナ対策にまわす努力や、停戦や国際協力を進める努力が進んでいます。改憲を許さず、立憲主義を取り戻すために青年と力を合わせます。不屈にたたかう沖縄県民に連帯し、米軍辺野古新基地建設反対の世論を広げます。「先制攻撃」を認める憲法違反の敵基地攻撃能力の保有に反対するとともに、おおもとにある日米安保条約を廃棄する展望を学び、広げます。核兵器禁止・廃絶と「核兵器禁止条約」に署名・批准する政府を」の声を広げるため、原水爆禁止世界大会（8月）を節目に、署名や「折り鶴宣伝」、「戦争・被爆体験の聞き取りプロジェクト」に取り組みます。

——国内外で、平和と民主主義、個人の尊厳を大切に、持続可能な世界をつくらうと青年が声を上げています。力を合わせ、歴史を前に進めましょう。性による差別や暴力を許さず、ジェンダー平等社会の実現へ、学び語り合い、行動します。人種や民族による差別を許さず、侵略戦争と植民地支配の歴史を学び、その美化とたたかいます。地球環境破壊を食い止めるため、力を合わせます。

## （2）未来への展望をつかみ生き方を考える学びを青年とともに

「コロナ禍の中でも富裕層が資産を増やしていると知ってびっくり。本当に資本主義の矛盾が明らかになってきた」「医療も介護ももうけ最優先の社会になっている中で、何のために働くのか、どう生きるのか考えられるのが民青の学び」——青年も社会も大きく変わろうとしているいま、未来への科学的な展望をつかみ、この時代にどう生きるのかを深く考えられる民青の学びが輝いています。資本主義を乗り越えた社会主義・共産主義への展望は、青年の模索への鋭い回答となっています。青年の関心にこたえ、ともに学び語り合う活動を思い切って強めましょう。

多彩な関心を出発点に、科学的社会主義と日本共産党綱領の立場で学び語り合う「つどい」や学習会がどこでも大好評です。「同僚を誘って学習企画『私たちの医療・福祉』新自由主義を乗り越えて」を開催。ケア労働のかけがえのなさに自信を持った「『し

んぶん赤旗特派員から学ぶ！アメリカ人種差別問題』で歴史的背景から学んだ」「共産党議員と語り合う『コロナ後の世界と私たち』で『もつと話を聞きたくなつた』という学生が加盟した」「まわりの学生と一緒に『資本論』ゼミを開催」など、工夫してどんどん取り組みましょう。

民青新聞は、青年と一緒に自分のことも社会のことも深く語り合える絶好のアイテムです。フィールドワークは、社会の現実に触れることによって、みんなで「自分たちはどうするか」を語り合う機会になっています。勉強や進路選択、就職や仕事の悩みにこたえる学習と交流は、「勉強が分かるようになりたい」「いい仕事がしたい」思いを励ますものになっています。青年と同盟員の気になることから出発し、多彩なテーマで学習と交流を進めましょう。

### （3）総選挙に勝利し、新自由主義からの転換で新しい社会への一歩を踏み出そう

来たるべき総選挙は、コロナ危機から青年の命と暮らしを守り、人々の暮らしと権利を最優先にする政治に切り替える選挙であり、野党連合政権の実現で新しい社会への一歩を踏み出す絶好の機会です。すべての班が「日本共産党と一緒に政治を変えよう決議」をあげて、政権交代を目指し、市民と野党の共闘の勝利と日本共産党の躍進へ力を合わせます。

野党が「新自由主義からの転換」を旗印に、政権合意と青年にとって魅力的な共通政策をもって本気で共闘するよう、つかんできた実態や具体的な要望、提案を野党に届け、その実現を求めます。

ぶれずに「野党連合政権を」と呼びかけ、「アメリカいなり」「大企業優先」の政治をおおもとからただす立場の日本共産党を躍進させることが、青年の要求を実現し新自由主義を乗り越えた社会をつくる上で、もつとも確かな力です。日本共産党後援会やJCPサポーターに力を合わせ、ともにたたかう青年の輪を広げます。

### 3、みんなの力で共同と連帯を草の根から広げる力強い民青をつくらう

#### （1）この1年の努力を確信に、「三つの基本姿勢」を貫いて現勢の前進に転じよう

この1年、908人の同盟員と437人の機関紙読者を増やし、27の班を結成・再建してきました。組織づくりに客観的な制約が生まれるもつとで、全国の奮闘によって築いた貴重な到達です。また、同盟員の倍加を呼びかけて以来、昨年・一昨年と2年連続で年間1000人を超える仲間を迎えられるようになったこと、同盟費を納入する同盟員がこの2年あまりで1・2倍となったことは、みんなの努力が実りつつあるという点でも、要求を実現し社会を変える力を大きくするという点でも、大切ですが。青年の変化と民青の活動がかつてなく響き合っているいま、私たちの努力でつくってきたこうした変化を同盟員現勢の前進に実らせることが挑戦したい課題です。

第43回大会決定が示した組織づくりの「三つの基本姿勢」に基づく努力は、コロナ危

機の下での組織づくりというかつてない挑戦の中でも、確かな手ごたえを生み出しています。

青年に思い切って働きかける中で、青年の願いと民青の活動が響き合っていることがみんなの実感になっています。近年にない規模で青年に働きかけ、切実な願いに応えて真剣に頑張る姿に強い共感や信頼が寄せられています。青年の実態や社会への関心に触れたことで、多くの同盟員が「何かしたい」思いや民青の活動への確信を強めています。

展望を学ぶことや班会を開き集まることが、青年と同盟員の要求実現にとつてどれほど大切かを改めて実感してきました。困難の中でこそ、つながる努力や集まる努力を強め、不安な思いも頑張りたい気持ちも語り合い、学んだことが、同盟員としての生き方に自信をもつて活動する力となっています。

仲間を増やすことにみんなが挑戦することが意識され、青年と結びつき一緒に学び行動する中で仲間を迎える経験が生まれていること、加盟した新しい仲間が生きいきと活動していることは大切です。

こうした努力と変化を全同盟に広げ、どこでも実際に「仲間を迎える」ことに結び付けることができれば、同盟員の倍加を目指し、前進に転じることは可能です。

この先の1年、①青年に働きかけ一緒に学び行動するとともに、②すべての同盟員が生きいきと活動し、③仲間を増やす独自の努力を貫くことを基本姿勢に、民青を強く大きくするために、みんなで力を合わせましょう。こうした努力を進めるため、同盟員を増やす目標を持ち、同盟費の納入人数をバロメーターにして活動します。

同盟員の倍加を目指し、現勢での前進に転じるために、全国的には次の1年で、▽2000人の同盟員を増やし、▽同盟費の納入人数で前進するとともに、▽班活動の発展と新たな班の結成を進めることを目指し、それぞれの班・地区・都道府県で「自分たちの目標」を決めて達成を目指します。機関紙活動を発展させ、年間1000人の読者を増やして前進させます。

## (2)「班が主人公」の活動を楽しく豊かに発展させ、仲間を増やそう

コロナ危機のもとで、自分たちの要求も青年の願いも実現できる班の魅力が輝いています。班は、同盟員が自分の要求や関心を生かして活動し、成長していく基本の場です。また、民青がコロナ危機から青年の命と暮らしを守るためにも、新自由主義を転換して、希望ある新しい社会をつくるためにも、そして青年と力を合わせるためにも、班はかけがえのない存在です。この班の活動を地域・職場・学園に根差して「班が主人公」で楽しく豊かに発展させ、仲間を増やしていくことが、いっそう大切になっています。

要求や関心を出し合い、中央や県・地区の方針を指針にして「班の役割は何か」「どんな班になりたいか」を話し合えば、班員が心ひとつに力を合わせるすることができます。どうやったら自分たちの班活動を発展させられるかをみんなで考え、班活動プランと仲間を増やす目標を決めて新たな活動に踏み出しましょう。

### ■同盟員と青年の要求と関心を大切に、一緒に学び行動する班になろう

班活動の出発点は、同盟員と青年の要求や関心です。ある学生班は、「コロナで実習に行けない」「いまの学びが将来にどう結び付くのかイメージがわからない」という声に聴いて、「福祉現場で働くOBの話を聞く企画」に取り組みました。参加した学生から「将来につながるよと分かって頑張るモチベーションになった」と語られるなど、学生生活を支える取り組みになっています。政治や社会のことはもちろん、仕事や勉強のこと、進路や生き方、恋愛や人間関係など、要求や関心に応える活動を広げましょう。

同盟員の要求は、まわりの青年の要求と重なり合っています。『職場のみんなも困っているはず』と同僚からアンケートを集めて企画を開催。仕事のことや労組のことも語り合って仲間に迎えた。「コロナ禍のもとでの学びを考える企画に学生を誘ったら、『大学の学びは人間形成にとって必要』と大好評」など、青年と一緒にその実現を目指しましょう。

### ■みんなが学び成長する班になろう

学習は、青年の要求や未来への展望、自分たちの活動の意義を科学的にとらえ、前向きな思いや発展の芽を引き出す力を持っています。青年が社会のあり方に目を向け、声を上げ始めているいま、展望を学ぶ同盟員の存在が一層輝いています。「学びたい」「成長したい」という願いを大切に、みんなが学び成長できる班を目指しましょう。

民青が発行するパンフレットや日本共産党創立98周年記念講演を学びましょう。みんなの理解をたすけ学ぶ意欲を励まし合うために、学習会はもちろん独習にも挑戦し、日本共産党の協力を得るなど工夫しましょう。

学習セミナー4課目（①科学的社会主義、②日本共産党綱領、③民青の目的・歴史、④民青の規約・同盟建設）をすべての同盟員が受講することを呼びかけます。『班活動ノート』に基づいて受講状況を確認し、少人数からでも取り組みましょう。新たに加盟した仲間はすみやかに基礎講座を受講し、学習セミナーにつなげましょう。

### ■「班会、機関紙、同盟費」を合言葉に、班長を中心にみんなで力を合わせる班になろう

同盟員と青年の要求を実現し、みんなが学び成長できる班になるためにも、「班会、機関紙、同盟費」を合言葉に、班長を中心にみんなで力を合わせる事が大切です。

コロナ危機のもとで、「改めて班会が大切だと思った」「民青新聞に励まされた」「普段参加できていない仲間に声をかけたら喜ばれた」との実感が広がっています。すべての同盟員が班会に参加し、民青新聞を読み、同盟費を納めることで、班の活動は豊かで力強いものになります。「集まるのがなぜ大切か」を語り合って、週1回の班会開催・定例化へお互いに努力しましょう。民青新聞をよく読み、配達・集金を確実にし、読者を増やしましょう。『班活動ノート』に基づいて、活動に参加していない仲間にも繰り返し声をかけ、近況や思いを聞きながら同盟費の納入を呼びかけましょう。

すべての班で班長を選出し、班長を中心にみんなが個性や能力を生かして力を発揮できるよう、工夫しましょう。

### ■みんなで挑戦し仲間を増やす班になろう

いま、青年が加盟の呼びかけを待っています。「コロナの影響で仕事が激減し、政治も社会も自分の生活もすべて地続きだと感じるようになった」というある青年労働者は、「この状況下で人と会って話せる班会も、街頭宣伝も魅力的」と話して加盟しています。新歓で加盟したある学生は、「この夏に同級生を民青に迎え、「毎週の班会が本当に楽しみ。班会の時間をつくるために大学の課題を終わらせるようにしている。もっと仲間を増やしてこの社会で自分たちができることを考えたい」と話しています。班員が友達を次々に迎えている高校生班では、加盟した友人が「もっと早く誘ってくればよかったのに」と語り、班会も週1回に定例化されて「めっちゃ楽しい」活動になっています。

仲間を増やす活動は、青年の前向きな思いを後押しするやりがいのある活動であり、社会を変える活動であるとともに、自らも成長できる活動です。新しい仲間を増やせば、班活動はいつそう豊かになります。新しい社会をもにつくっていく仲間を増やすために、みんなで一緒に挑戦しましょう。

一人ひとりの「仲間を増やしたい」思いを交流すれば、踏み出す勇気が湧いてきます。結びついた青年の声や実態を振り返れば、その青年が加盟する意味が見えてきます。「いま青年が加盟することにどんな意味があるか」「民青が大きくなるのがなぜ大切か」を意識的に話し合い、仲間を増やす目標と青年の名簿をつくって取り組みましょう。

「加盟よびかけ文」を使えば、誰でも民青の魅力や役割を伝え、相手の前向きな思いを引き出すことができます。相手の「やってみよう」という思いに光を当て、「あなたの願いを実現するためにも入ってほしい」「一緒に学んで成長しよう」と真剣に粘り強く呼びかけましょう。加盟を訴えた経験や努力も、その中で生まれた悩みやためらいも、みんなで交流し次に生かしましょう。

### (3) 地域に根差して運動し、「班が主人公」の活動を支える都道府県・地区委員会へ

コロナ危機のもとでも活動を中断させず、民青が役割を發揮する上で、都道府県・地区委員会の頑張りが力となっています。困難な中でこそ中央や県・地区の方針を握って離さず、「この状況の中で民青に何が求められているか」を真剣に議論して「青年の実態をつかもう」「同盟員とつながろう」と班と同盟員を励ましてきました。つかんだ実態に向き合い、「政治に届けることが必要」「身近な青年に声をかけ、力を合わせるが大切」と力を尽くしたことが、地域から青年と同盟員の行動を後押しし、社会を動かしてきました。こうした活動を通じて、「地域に根差した運動を広げたい」「立ち上がる班と同盟員を増やしたい」「もっと民青を大きくしたい」という思いが強まっています。

いまこそ要求実現の運動と展望を学び語り合う活動を、地域に根差し思い切っって広げましょう。「班が主人公」の活動の発展へ、班長とよく相談し、班が自分たちの力で活動



できるよう後押ししましょう。仲間を増やして新たな班をつくることに挑戦しましょう。こうした活動に役員が心ひとつに取り組むために、毎月の会議を何より大切にしましょう。一つひとつの取り組みの意味を共有し、時々の方針をみんなのものにすることが大切です。やったことがないことも、お互いの挑戦を励まし合い、できることをひとつずつ増やしていきましょう。学習と交流を大切に、役員みんなが成長し、ともに成し遂げる集団になっていくことを目指しましょう。日本共産党と力を合わせましょう。

こうした努力の中で規約通りの県・地区委員会活動の確立を図るとともに、地区委員会の再建を目指しましょう。

以上